

年度	平成16～18年度
----	-----------

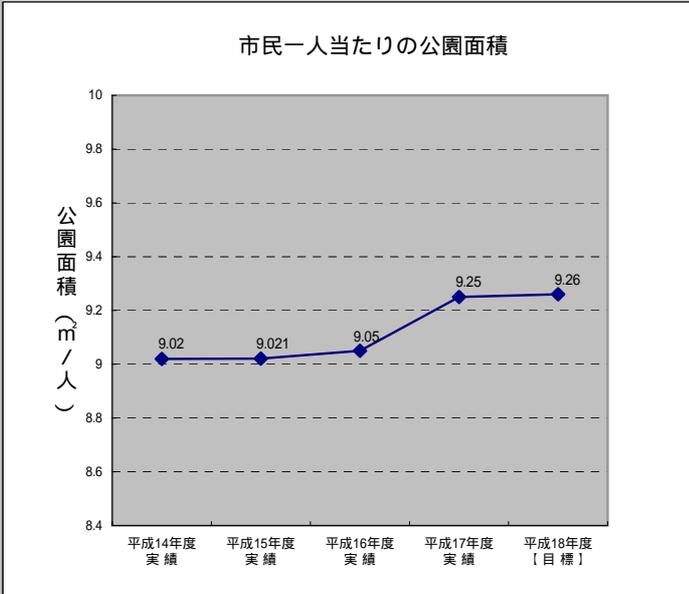
基本目的 1 市民が快適に暮らせるまちになる

行動目標 1-1 快適に暮らせる生活基盤が整う (所管課名 都市整備部市街地整備・公園課)

任務	市民に親しまれる公園・緑地を整備する
-----------	---------------------------

任務の成果・活動指標の推移

市民一人当たりの公園面積	
H14実績	9.02㎡
H15実績	9.021㎡
H16実績	9.05㎡
H17実績	9.25㎡
H18目標	9.26㎡



指標の説明

市民一人当たりの公園面積は、10㎡を基準とするよう法令に定められていることから、快適な生活基盤を整えるための公園緑地事業の指標とした。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度
 南部丘陵公園整備事業は、南ゾーンにて事業を集中して展開し、ピオトープ等の自然観察エリアやユニバーサルデザインに配慮した広場整備を進めた。平成17年度末には、1.5haの面積を供用開始することができた。
 中央緑地の改修については、築造後30数年を経て、老朽化の著しい施設にあっては早急な対応が必要であることから、排水ポンプの改修や園路の改修を実施し、機能の向上やランニングコストの削減を図るとともに、公園利用者の安全確保に努めた。
 街区公園整備事業は、平成16年度に富田中公園、平成17年度に本郷青空公園を実施し、地域の身近な公園として、また老若男女のコミュニティーの場として、ワークショップを経て事業を展開した。
 既設の公園(特に街区公園)について利用形態を見直し、用途に合った施設への転換や出入口の改良を実施し、日常管理についての地域との協働を図った。また愛護会についても楠地域を含め10箇所増設できた。
 これらの取り組みの結果、平成17年度において市民一人当たり9.25㎡の公園面積を得ることができた。

平成18年度

平成18年度は補助事業として、南部丘陵公園の整備を鋭意推進すると共に、新規事業として重要な位置において貴重な緑を保有する垂坂公園羽津山緑地の用地確保に着手し、事業を推進する。
 本郷および末永において街区公園整備を2箇所実施
 霞ヶ浦緑地跨道橋の耐震調査を実施し施設の早期安全確保を図る。

これからの課題、施策等展開の方向性

市民1人あたり10㎡の公園面積を確保するためには用地取得が基本となることから、将来において手戻りとならないよう手法を十分検討する必要がある。
 公園緑地の施設について、経年変化に伴っての施設転換が不可欠であると共に、防災面を考慮した施設配置の見直しが必要のため、地域に密着した街区公園を主体として手法を策定し、年次計画で必要ヶ所のリニューアルを図る。
 公園緑地の施設管理について、管理瑕疵の発生しないよう橋梁の耐震対策を平成19年度に実施する。